

2018年度第1回函館競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 駒ヶ岳特別

駒ヶ岳（こまがたけ）は、北海道渡島半島東部、内浦湾を臨む成層火山。南麓に大沼・小沼・葦菜（じゅんさい）沼などの堰止め湖、南東麓には鹿部や留ノ湯などの温泉地がある。

○ HTB杯

HTBは、札幌市に本社を置く北海道テレビ放送の略称。昭和43年開局で、ANN（テレビ朝日）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 遊楽部特別

遊楽部（ゆうらっぷ）は、北海道南西部、八雲町の地名。名は、アイヌ語の「ユー・ラプ（温泉の流れる）」に由来する。遊楽部岳や遊楽部川などがあり、冬には国の天然記念物のオオワシやオジロワシが数多く飛来する。

<第2日>

○ 木古内特別

木古内（きこない）は、北海道南西部、津軽海峡に面した町。名は、アイヌ語の「リロナイ（高く昇る源）」または「リロナイ（潮の差し入る川）」に由来する。また、木古内駅は北海道最南端の駅として、北海道新幹線の玄関口の役目を果たしている。

○ サマースプリントシリーズ函館スプリントステークス（GⅢ）

サマースプリントシリーズの第1戦。

本競走は、平成6年に『札幌スプリントステークス』として創設された重賞競走。札幌と函館の開催日割の変更に伴い、9年より函館競馬場で実施されるようになり、レース名も現在の名称に変更された。

○ 北斗特別

北斗（ほくと）は、北海道南西部、渡島半島南部にある市。上磯郡上磯町と亀田郡大野町が合併し、平成18年市制施行。法亀寺しだれ桜や松前藩戸切地陣屋跡桜並木など、桜の名所が多く存在する。

<第3日>

○ 湯川特別

湯川（ゆのかわ）は、函館市東部の地名。温泉地として有名で「函館の奥座敷」とも呼ばれる。箱館戦争では、旧幕府軍の幕臣・榎本武揚が傷病兵を湯治させた。

○ 大沼ステークス

大沼（おおぬま）は、北海道南西部、七飯（ななえ）町にある駒ヶ岳の火山噴火でできた堰止め湖。周辺には小沼、蓴菜（じゅんさい）沼があり、大沼国定公園に含まれる。平成24年には、道南で初めてラムサール条約登録湿地に指定された。

○ 長万部特別

長万部（おしゃまんべ）は、北海道南西部の町。名は、アイヌ語の「オシャマンペ（カレイ・ヒラメがたくさんとれる川口）」に由来する。沿岸漁業や酪農が盛んで、「かにめし」が特産品として有名。

<第4日>

○ 奥尻特別

奥尻（おくしり）は、北海道渡島半島の西方にある面積約143k㎡の島。名は、アイヌ語の「イクシュン・シリ（向こうの島）」に由来する。古くから水産業が盛んで「夢の島」「宝の島」とも呼ばれる。

○ UHB杯

UHBは、札幌市に本社を置く北海道文化放送の略称。昭和47年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 津軽海峡特別

津軽海峡（つがるかいきょう）は、本州と北海道の間の海峡。津軽暖流が西から東へ流れている。海底下約100mの地中には、全長53.85km（海底部23.3km）の青函トンネルが通っている。

<第5日>

○ 恵山特別

恵山（えさん）は、函館市東部、渡島半島南東端にある二重式成層火山。太平洋に突き出すように位置する活火山で、現在も噴気活動が見られる。名は、アイヌ語の「イエサン（火を吹き溶岩が流れ落ちる）」に由来する。

○ TVh 杯

TVh は、札幌市に本社を置くテレビ北海道の略称。平成元年開局で、TXN(テレビ東京)系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 洞爺湖特別

洞爺湖（とうやこ）は、北海道南西部にあるカルデラ湖。名は、アイヌ語の「トヤ（湖畔）」に由来する。支笏洞爺国立公園に属し、周囲には有珠山、昭和新山などがある。平成20年には、主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）が開催された。

<第6日>

○ 檜山特別

檜山（ひやま）は、北海道南西部の振興局。離島の奥尻町を含む全7町で構成され、渡島半島の日本海沿いに位置する。同局にある江差町は、かつてニシン漁業が盛んで、特に江戸後期から明治にかけての繁栄は、「江差の五月は江戸にもない」と謳われた。

○ 巴賞

巴（ともえ）は、水の渦巻くような模様。渡島半島南端にある函館湾は、その形が巴状になっているところから「巴湾」とも呼ばれる。

○ 道新スポーツ杯

道新スポーツは、道新スポーツが発行しているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。